

映画の感想

介護の現場から実情とやりがいを感じ取ることができました。素晴らしい映画だった。薬剤師としてどう関わっていけるかを今後しっかり考えていかなければいけないと思いました。
人に向かいあう職種の方々をもっと増やしていくことが大事だと思う。これからの地域包括ケアに重要だと思う。今回の施設が理想かと思うが、大規模施設も必要であることは明らか。
美しく書かれすぎている所もあるなあと思いました。ですが、目的をぶれずに続けるということは難しいが、悔いを残さない方法になるということが学びました。
知っているようで知らなかった施設の職員の仕事を理解することができた気がします。やりがいや厳しさもしることができました。
介護のこと、そして自分以外の人(職種)のことをもっと知りたいと思いました。すばらしい映画でした。ありがとうございました。考えさせられました。
介護の現場においては日々ありふれた光景なのだと思うが、改めてその中にある視点でみることができよかったです。医療職の立場から普段は客観的に見ているが、家族が実際に舞台となった小規模多機能を利用していたのでそれを思い出しながら見ることはできた。より多くの方に見てほしいなと思います。
いろんなことがつまっている映画でした。1カット1カット意味深いものでした。ありがとうございました。
介護の問題などいろいろ考えさせられました。
オオモリ ケイさんのケイコ先生や家族、そして職場の仲間たちとのゆれ動く気持ちそのものがなんとも言えない「ケア」そのものなのかなと思いました。
映画のなかのスタッフの方まではいかなくても、あんな風なスタッフが育っていくようなことへの力を出せたらいいなと思いました。
思っていた以上に面白かった。感動しました。ただ、なかなかあのような理想的な介護をするのは難しいのではないかと思った。
ケアニンは何だろう？っていうのがはじめの感想です。ケアニンはそれぞれいろいろな方がいらっしゃいますが、それぞれ思うところなどは別々になるなと思いました。死に向かう人、周りの人でも変わってくるもので、でも死への恐怖又はそれをサポートしていく人、それぞれの気持ちが見て取れました。
色々な思いを感じる映画でした。命の在り方を考えるのに、医療介護職だけではなく一般の方にも是非見ていただきたいです。
「介護」というものを堅苦しく考えず、寄り添うこと、ともに生きることと考えることが需要であると感じました。
観ることができて、とてもよかったです。医療従事者という枠に限らず、いろんな方にも観てもらいたい、勧めたいと思いました。1日1日を、仕事に限らず、周りにいてくれる人を大切に想い生きていきたいと強く思います。
現場のリアルを見たような感じであった。一緒に喜んだりすることが大切だと思った。

主催者へのメッセージ

介護福祉士が主役の映画を初めて見ました。良い経験になりました。他の方にも勧めます。ありがとうございました。
コロナウイルス問題の中ご苦労様でした。また参加したいと思います。
貴重な機会を設けていただきありがとうございました！
とても良い映画をありがとうございます。続編必ず見ます。
新型コロナの時期となってしまいましたが、とても良い機会となりました。ありがとうございます。
つくばで上映される機会が告知されていても、都合があわず残念に思っていたので今回のお話があり楽しみにしていました。ありがとうございました。
良い機会を見る機会にあえて良かったです。ありがとうございました。
大変良い企画だと思います。ありがとうございます。
良い上映会を開いてくださりありがとうございます。こういった機会を開いてくださるのが市や公的な場だと信頼がおけますし、そういった場が近くにあることをうれしく思います。
今後の作品も楽しみにしています。
映画を見て、改めて介護現場において、多職種が専門性を活かし、連携をとることが重要だと感じるようになりました。ありがとうございました。